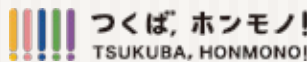




研究棟前で



農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門
植物微生物機能ユニット 上級研究員

Kasumi Takeuchi 竹内 香純 さん

大分市生まれ。岡山大学農学部卒業、同大学院で博士号（農学）を取得。現在は農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）で微生物による抗菌制御メカニズムを研究。

つくばで輝く
女性研究者



研究風景

《微生物の可能性》

自然環境の中に生息するカビや細菌などの微生物の中で植物保護に役立つ「拮抗細菌（バイオコントロール細菌）」を研究。特に植物の病気を抑えるグラム陰性細菌のシールドモナス属細菌の病害防除メカニズムを解析し、ゲノム情報を決定することで長短両面の影響を推測。この技術を応用することで、従来の化学農業ではなく微生物の機能を生かした利用方法が期待されている。「農研機構の共同研究者が全国の土壌から採取した菌をもらい、機構内の情報工学や構造生物学の専門家との

自然の力を活かし
食糧資源の未来を築く



夫と愛犬あんど

協力を図るなど、密に連携することで研究が進んでいます。今後は実用化に向けた製剤化技術、微生物を利用した新薬開発なども視野に研究を進める。

《持続的農業への貢献》

幼少から自然豊かな環境で育ち、高校在学中は英語と生物が好きで文理選択に迷ったが「科学は国や言語を超えてその価値を共有できる」と理系に進み、「食糧や資源を大事にしたい」という思いから岡山大学農学部に進学。植物と病原菌の相互作用を分子生物学的に解析する研究に取り組んだ。「大学時

代に感銘を受けた論文の責任著者が、海外では女性である割合が多いと感じていました」。大学院卒業後、農業生物資源研究所に入所し、博士号（農学）を取得。先輩女性研究者の活躍が励みになった。その後ローザンヌ大学（スイス）基礎微生物学部で2年間の在外研究を経験。「留学先でも女性研究者のキャリアパスについてよく話題になりましたと語る。

つくばの暮らし

つくばで暮らして十数年。通算で3年間通ったつくば研究交流センター内の英会話研修では、さまざまな研究機関の研究者と知り合えたことも貴重な経験になった。現在は筑波大学に勤務する夫と愛犬「あんど」と暮らす。「週末には犬が走り回れるドッグランを巡り、夫と県内遠くまで出かけます。日本の食糧自給率は低く、資源を無駄なく利用できる環境づくりにより少しでも貢献できればと思います」。